



高校生が県内外の自衛隊の仕事を体験



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）は、8月22日（火）から24日（木）の3日間、浜松修学舎高等学校（浜松市）の2年生3人に対するインターンシップに協力した。

これは、「企業における就業体験を通して働くことの喜びと厳しさ、さらに職業人としての心構えを学ぶ」をテーマとして行われた。

3日間とも天候に恵まれ、初日はリーダーサイトとして太平洋の空域を24時間態勢で監視することを任務とする航空自衛隊御前崎分屯基地（御前崎市）を訪れた。リーダーの整備や基地の業務など、各部隊に与えられている任務の説明を聞いた後、実際に隊員が勤務している様子を見学するとともに、基地を維持管理する上で大切な消火用ホースを使用した放水や担架搬送などを体験した。

2日目は、陸上自衛隊豊川駐屯地（愛知県豊川市）を、3日目は、航空自衛隊浜松基地（浜松市）を訪れ、各自衛隊の概要やそれぞれの任務の違いを学ぶとともに、各自衛隊で使われている車両や航空機などを見学した。

参加した生徒は、「自衛隊の任務の重要性が理解できた」「自衛隊の中にさまざまな職種や仕事があることに驚いた」などの感想を話していた。

静岡地本は、今後もさまざまな機会を通じて学校との関係を深めるとともに、若者に自衛隊の魅力を紹介し、仕事や役割について理解を深めてもらえるよう広報活動に努めている。

「高等工科大学オープンキャンパス」に中学生が参加



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）は、8月22日（火）、陸上自衛隊高等工科大学（神奈川県横須賀市）が実施するオープンキャンパスに志望者と保護者を引率した。

これは、毎年同校が受験希望者や保護者などに対し学校の魅力や特色を理解してもらうため実施しているもので、静岡地本から54人が参加した。

当日は、講堂において学校の概要説明を受けた後、資料室や授業風景、生徒たちが普段生活を送っている生活舎などを見学するとともに、食堂においては普段生徒が食べている食事を体験喫食するなど、参加者は限られた時間の中でも学生生活への理解や興味・関心を更に深めている様子であった。

オープンキャンパスを終えた中学生は「授業風景や実際に生活する居室などの環境を見ることができてとても良い刺激になった。来年の試験に向けモチベーションが上がり、弾みがついた」などと感想を話していた。

静岡地本は、今後も学校などと連携しオープンキャンパスなどを活用した積極的な募集広報に努め、中学卒業後に進むことのできる自衛隊の制度があることを案内し、将来を担う優秀な若者の獲得に全力を尽くす。

希望を胸に新たな場所へ旅立ち



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己1等空佐）は、8月24日（木）、海上自衛隊横須賀教育隊（神奈川県横須賀市）で行われた「第10期一般海曹候補生課程修業式」に参加した。

5ヶ月間の教育を終えた新隊員の雄姿を見ようと、会場には多くの隊員家族や来賓が集まり、厳粛な空気の中で式が執り行われ、厳しい教育を乗り越えた新隊員たちの新たな門出を祝福した。

式の中では、横須賀教育隊司令や来賓などによる祝辞、横須賀地方総監による訓示、成績優秀隊員に対する司令からの表彰、協力団体からの激励品の贈呈などが行われた後、横須賀音楽隊の演奏により同期全員で教育隊生活最後の「海をゆく」を歌い、式を締めくくった。

修業式後には会食が開かれ、新隊員たちはつかの間の家族団欒を楽しんだ様子であった。最後に家族や来賓などが沿道で見守る中、分隊ごと整列してパレードを行い、海上自衛隊の伝統である別れの挨拶「帽ふれ」をして新隊員はそれぞれの勤務地へ旅立った。

静岡地本は、郷土出身隊員が一人前の海上自衛官として成長し、活躍することを祈念しつつ、隊員と地元の架け橋として支援に努めていく。